

福島県立博物館の使命と活動方針

平成 19 年 7 月公表

平成 25 年 4 月・平成 26 年 6 月・平成 28 年 3 月・平成 31 年 3 月改正

福島県立博物館は、昭和 61 年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。博物館をとりまく社会情勢が変化する中で、多様化する要請に配慮しながら、社会に対する当館の責務を使命として明示し、新しい時代の博物館として目指すべき活動方針をとりまとめ、その内容を公表します。

◆使 命

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故は、福島県に大きな被害を及ぼしました。博物館では、この震災を契機として、従来からの活動に加えて、新たな試みを始めてきました。それらを、未来に向けての取り組みとして定着、発展させてゆきます。

これらを基本に、福島県立博物館が担う 3 つの使命を掲げます。

I ふくしま発見 博物館

ふくしまの歴史・文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、利用者の皆さまとともに、地域文化の価値を学び、新たな文化を創り出します。

II 出会いふれあい 博物館

文化の多様性を尊重し、地域とすべての人に開かれ、人と人々が自由に交流し語り合える博物館を目指します。そのために、皆さまの心の拠り所となり、自ら学び体験できる場を創出します。

III 明日に向かう 博物館

震災の継承や博物館相互の連携強化を軸にした未来志向の取り組みを通して、発信力のある力強い博物館を目指します。災害や社会情勢の変化に対応し、行政や文化施設・諸団体と連携して、様々な課題に取り組みます。

◆活動方針

使命を果たすため、以下の10項目の活動を実践します。活動方針に沿って、とくに重点的に進める具体的な目標は、期間を定めて策定する「福島県立博物館中期目標」として公表します。

〈 使命Ⅰ「ふくしま発見 博物館」関連 〉

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を表す歴史・文化遺産と自然史資料および震災遺産を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。資料情報はデータベースとして整備し、可能な限り公開・活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。地域の課題と関係したテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示・講座

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できるようにします。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、ニーズに応じて、さらに詳しい情報を準備し提供します。

〈 使命Ⅱ「出会いふれあい 博物館」関連 〉

4. 楽しめて出会いのある場の創出

居心地がよく、いろいろなことを体験・創造・表現できる博物館を目指します。人と人が出会う文化的なコミュニケーションの場を設けます。未来を担う子どもたちとともに文化の創造力を育みます。

5. 利用者との協働

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館を運営します。幅広く館外からの協力を得ながら、誰にも開かれた博物館の事業を推進します。博物館の機能を生かした事業の実施を利用者の皆さまとともに目指します。

6. 博物館情報の公開と発信

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、時代の変化に応じた効果的な広報活動により展示など館活動の情報を広く伝え、博物館イメージと認知度の向上を図ります。

7. 地域連携とネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換・共同研究や利用者への相互紹介、事業の共同実施を行います。会津という観光地に立地することを踏まえ、地元会津の市町村や文化・観光施設・団体等と連携、協働し、新しいタイプのニーズに対応できるよう努めます。

〈 使命Ⅲ「明日に向かう 博物館」関連 〉

8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

東日本大震災による多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくため、震災に関連するモノと震災を示すバシヨの資料化を行い、常設展示による公開とともに広く利活用することを目指します。

9. 新たな博物館の役割・機能の創出

これまでの博物館活動による蓄積を基盤にしつつ、自由な発想によって博物館の役割や機能を拡張していきます。博物館ならではの新たな広がりのある活動を検討することで、社会の課題やニーズに向き合います。

〈 3つの使命に共通する基盤として 〉

10. 管理運営

利用者の安全確保と快適性に配慮し、施設や設備を保全します。優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。